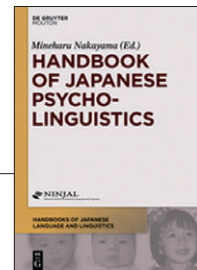


著書紹介 Handbooks of Japanese Language
and Linguistics 9 Handbook of Japanese
Psycholinguistics Mineharu Nakayama (ed.)

著者	中山 峰治
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	6
号	2
ページ	54-55
発行年	2015-10
URL	http://doi.org/10.15084/00000789

Handbooks of Japanese Language and Linguistics 9
Handbook of Japanese Psycholinguistics
Mineharu Nakayama (ed.)
Masayoshi Shibatani, Taro Kageyama (series editors)
De Gruyter Mouton, June 2015. xliii, 635 pages.



中山 峰治

本書は「英文日本語研究ハンドブックシリーズ」の第9巻として、日本語の心理言語学に関する最先端の研究成果をまとめた英文ハンドブックである。2006年に出版された Handbook of East Asian Psycholinguistics Vol.2: *Japanese* (ケンブリッジ大学出版)以降、言語習得と言語処理の2分野が理論的・方法的に大きく進展したことを踏まえ、本書では日本語から世界の諸言語の分析に大きい貢献ができると思われる研究項目を選択した。たとえば、脳に関する論文が数編収録されている。また、ハンドブックとして現在の研究課題や問題点をまとめるとともに、今後の研究の方向性を提示し、心理言語学分野の包括的で分かりやすい紹介を目指した。

本書は序章と18章からなり、章タイトルを日本語にすると、以下の通りである。英文情報に関しては出版社のHP (<http://www.degruyter.com/view/product/181964>)等を参照されたい。

言語習得

- 第1章 乳児が日本語を母語として聞くことができるようになる発達の過程 (馬塚れい子)
- 第2章 日本語における可算性と不可算性の区別 (今井むつみ・加根魯絢子)
- 第3章 日本語を母語とする特異的言語障害児における文法障害 (福田真二・福田スズィー・伊藤友彦)
- 第4章 日本語における(擬似)主節不定詞現象 (村杉恵子)
- 第5章 作用域解釈の獲得 (郷路拓也)
- 第6章 日本語(母語)における「語り」の発達 (南雅彦)
- 第7章 第二言語としての日本語習得 (白井恭弘)
- 第8章 第二言語習得における文法モジュール (中山峰治・吉村紀子)
- 第9章 第二言語としての日本語におけるテンスとアスペクト (ガブリエール アリソン・杉田守)
- 第10章 言語習得と脳の発達: 外国語の処理 (萩原裕子)

言語処理

- 第11章 枝分かれ構造曖昧性の解釈における韻律の役割 (広瀬友紀)
- 第12章 日英語文処理理論における学習の役割 (チャン フランクリン)
- 第13章 実験統語論: 文処理における語順 (小泉政利)

- 第14章 日本語の関係節処理：類型的違いの心理言語学的研究（カフラマン バルシュ・酒井弘）
- 第15章 脳における統語と意味の情報処理：日本語のERP研究からの検証（坂本勉）
- 第16章 L2日本語処理における，L1との類似点・相違点，およびワーキングメモリーの個人差に関する問題（澤崎宏一・柏木明子）
- 第17章 第二言語としての日本語文産出研究のための文産出モデル（岩崎典子）
- 第18章 中国語母語話者の日本語処理（玉岡賀津雄）

本書は、言語習得の領域として、子供の母語習得について6章、第二・三言語習得について4章、また言語処理の領域として、母語としての日本語処理について5章、第二言語としての日本語の処理について3章を収録している。しかし言語習得に含まれていても第10章のように日本語を母語とする子供の英語処理にも関係する章もあり、また、第12章は言語処理に含まれているが、言語習得モデルについて言及している。今日、さまざまな技術革新により、言語処理をする脳の調査が可能となり、本書では日本語を他言語と比較しながら、言語発達、言語処理のデータをもとに脳のメカニズムを解明しようとする興味深い研究も採り上げた。赤ちゃんが日本語を聞くとはどういうことか、個別に数えられるものとそうでないものを形態表示のない中どのように概念化するのか、特異的言語障害児の文法やテンスのない主節不定詞文、数量詞の解釈、外国語習得、第三言語としての日本語習得についても理論の紹介と実証データを提示した。言語処理では、音声による曖昧な構造の区別、語順処理データによる理論統語論の構造解明、関係詞節の処理、言語処理能力の個人差と外国語理解、そして産出モデルを議論し、中国語母語話者の日本語についても特別の章を設けた。本書の刊行によって、収録されたこれらの日本語心理言語学研究成果が他言語の理論的・実証的心理言語学研究の発展に大きく貢献すると、編者として確信する。

中山 峰治（なかやま・みねはる）

オハイオ州立大学東アジア言語文学科教授。Ph.D.（言語学）（コネチカット大学）。コネチカットカレッジ講師、オハイオ州立大学助教授、准教授、東アジア学研究センター副センター長、センター長代理、日本学研究所所長等を経て現職。2012年4月より国立国語研究所理論・構造研究系客員教授。

主な著書・論文：『海外短期英語研修と第2言語習得』（共著、ひつじ書房、2010）、*Handbook of East Asian psycholinguistics Vol.2: Japanese*（共編著、Cambridge University Press、2006）、*Sentence processing in East Asian languages*（編著、CSLI、2002）、*Issues in East Asian language acquisition*（編著、くろしお出版、2001）、*Japanese/Korean linguistics 9*（共編、CSLI、2001）、*Acquisition of Japanese empty categories*（くろしお出版、1996）。

受賞：Outstanding International Faculty Award、1998。Ohio Civil Rights Commission Commendation、2007。

社会活動：日本第二言語習得学会運営委員、*Journal of Japanese Linguistics*（Vol. 22-29）編集長、*Studies in Language Sciences* 副編集長、*Journal of Linguistics, Education & Culture* 編集委員、*Journal of Studies in Language* 編集委員。